



令和6年 日田 祇園

ユネスコ無形文化遺産登録
国指定重要無形民俗文化財
ぼくらの胸を赤く燃やす

Itizagion

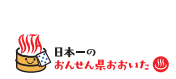
令和6年 日田祇園
7月20日(土)・21日(日)
第36回日田祇園 山鉾集団顔見世
7月14日(日) ■場所: JR日田駅前



九州の山あいに、絢爛豪華な祭あり。

主催/日田祇園山鉾振興会

お問い合わせ/日田まつり振興会事務局(日田市観光課) TEL 0973-22-8210 日田市観光協会 TEL 0973-22-2036
日田市観光情報ウェブサイト 日田市のおまつり 日田市観光協会ウェブサイト 水が磨く郷



駐車場案内図

山鉾の運行状況が
確認できます!

下記 QR コードから
専用ページにアクセスしてください。



<https://hitagion.docoilon.com/>



**晩山
豆田地区**
20日(土)・21日(日)
午後7時40分頃~
御幸橋・一新橋

集団顔見世会場
14日(日) 午後6時30分頃~
JR日田駅前

**晩山
平成山鉾**
20日(土)
午後8時頃~
祇園山鉾会館~札の辻

**晩山
隈・竹田地区**
21日(日)
午後8時頃~
札の辻

※祭り期間中は、隈・竹田地区及び豆田地区(部分)への
車両の乗り入れを控えていただきますようご協力ください。



第36回

日田祇園山鉾集団顔見世

7月14日 日

午後6時30分頃～
〈JR日田駅前〉

- 駅前での集団顔見世の実施に伴い、右図のとおり交通規制が行われます。
ご迷惑をお掛けしますが、ご協力くださいますようお願い申し上げます。
- 天候により、中止となる場合がございます。

隈・竹田地区4基、豆田地区4基及び平成山の合計9基の山鉾がJR日田駅前に集合します。



- 集団顔見世の実施にあたり、各所で交通規制を行いますので、ご協力をお願いします。



■お問い合わせ

日田まつり振興会(日田観光課) ..0973-22-8210 日田祇園山鉾会館 ..0973-24-6453 日田市観光協会 ..0973-22-2036

豆田地区

※豆田地区は、夜間(午後6時～午後10時)車輛進入禁止になります。

晩山 (豆田地区4町山鉾)

20日 午後7時40分頃 一新橋(口上)
21日 午後7時頃 御幸橋(祇園囃子)

廣瀬資料館駐車場

20日 午後9時頃 集合



山鉾の運行状況は
☞こちらから



豆田八阪神社前

20日 午前9時30分頃 集合 21日 午前11時30分頃

中城御旅所

20日 午前11時頃 集合
21日 午前10時頃 集合

【豆田の起り】

江戸時代の慶長6年(1601年)に、小川壺岐守光氏が丸山城と称して月隈山(現・月隈公園)に築城した際に、城の東側に十二町村から商家を移して町が開かれました。元和2年(1616年)には譜代の石川主殿忠総が丸山城を改築して永山城と改め、城下の武家屋敷を花月川の対岸まで拡大し、豆田町としました。

その後、幕府の直轄地「天領」となり代官所が置かれ、昇格し西国筋郡代役所になり、九州の政治、経済の中心として栄えました。また、幕末には廣瀬淡窓が咸宜園を開き、全国から塾生が集まってきました。



豆田上町

上町の山鉾は、日田祇園山鉾で唯一後ろにも人形が乗ります。上町には3枚の見送り幕(鯉・鷺・龍)があります。今年は、安政6年(1859年)制作の龍です。伝統ある山鉾の華麗で勇壮な曳き廻しをご高覧ください。

見送り『龍』
安政6年(1859年)制作



港町

港町の山鉾は巡行距離も長く、平成29年復元新調の可変式の山鉾(高さが自在に変えられる)が町内各所をくまなく回ります。併せて、平成22年に復元新調した「見送り」は必見です。

見送り『牡丹に唐獅子』
平成22年(2010年)復元新調



豆田下町

豆田下町の山鉾は、平成30年に復元新調を行い、四本柱が伸縮することで最高7.4mの高さとなります。平成27年に見送り幕と水引き幕も復元新調を行なったことで、豪華絢爛な山鉾となりました。是非ご高覧ください。

見送り『鳳凰』
平成27年(2015年)復元新調



中城町

昭和61年に30年間途絶えていた山鉾を町内有志と町民の支援により復活を果たし、令和元年には34年ぶりに山鉾本体を文化財保存事業の一環として復元新調しています。また、見送り幕も同様に平成28年に復元新調しています。

見送り『玄武』
平成28年(2016年)復元新調



隈・竹田地区

隈八坂神社

20日 正午頃 集合
21日 午後2時頃 集合



山鉾の運行状況は
こちらから



竹田若宮神社

20日 午後2時頃 集合
21日 午前11時30分頃 集合

晩山(平成山鉾)

20日 午後8時頃出発
札の辻(折り返し)～黎明館
八坂神社(折り返し)～札の辻(折り返し)

晩山(隈・竹田地区4町山鉾)

21日 午後7時30分頃 札の辻

【隈の起り】

文禄3年(1594年)に、豊後日田・玖珠2万石の蔵入地代官を務めた豊臣秀吉配下の、宮木豊盛(長次郎)が日隈山(現在の亀山公園)に城を築き、その対岸に開いた城下町が起源です。

慶長元年(1596年)には、後に豊後佐伯藩の初代藩主となる毛利高政によって、現在の町割りの原型が作られたと言われています。当時は、現在の中本町、隈1・2丁目を二重の堀と土塁で囲み、要所に木戸門を設けて朝夕に開閉していたと言われています。



川原町

川原町の山鉾は、平成24年水引幕を120年ぶりに新調しました。睨みあった龍と虎が勇壮で躍動感ある姿に刺繍されており、豪華絢爛にしあがっています。

見送り『素盞鳴尊大蛇退治』
平成8年(1996年)制作



三隈町

三隈町の山鉾は、町内の皆さんは勿論、町外から協力してくれる方々と一致団結して魂を込めて製作しています。特に提灯の明かりのついた夜の山鉾の趣を皆さんに感じていただきたいと思います。

見送り『龍』
昭和60年(1985年)制作



大和町

大和町の山鉾は、100年以上もの間活躍した山鉾が平成22年に勇退し、平成23年に新調された高さ10mの山鉾です。今年の見送りは、福岡で行われたユネスコ登録記念イベントで全国の人に披露した我有木町(大和町1丁目)の『鷲』です。
豪華絢爛な大和町山鉾と見送りを是非ご覧ください。

見送り『鷲』
明治39年(1906年)制作



若宮町

若宮町の山鉾は、昭和12年に一旦途絶えましたが、昭和54年に復活し、平成25年に新調されました。見送りの獅子に負けない迫力の巡行をご覧ください。

見送り『唐獅子』
昭和58年(1983年)制作



平成山鉾

今年35年目を迎える平成山鉾は、日田祇園の曳山行事がユネスコ無形文化遺産に登録された際の記念イベントとして福岡市役所周辺での巡行に参加し、また、熊本市で行われた『祭りアイランド九州』でも巡行いたしました。その翌日には、ラグビーワールドカップで日田祇園のPRの為、大分県立美術館に約30日間世界中の人達に平成山鉾を見ていただきました。

今年の華題は『清涼山石橋』赤獅子・白獅子の迫力ある見事な人形と山鉾を是非ご覧ください。



日田祇園囃子

日田祇園において神事の風情を現しかつ威勢をつけるためのお囃子で、笛、太鼓、三味線の音色で山鉾巡行に華を添えます。

曲目は江戸から昭和初期にかけて流行した端唄・俗曲を、山鉾の囃子にアレンジしており、山鉾巡行の為に日田の庶民が生み出した素朴なお囃子です。

現在は保存会が結成されており、古くから伝わる伝統の音色を継承しています。手作りの篠笛による独特の音色をお聞きいただきたいと思います。



日田祇園の歴史・概要

日田における祇園信仰は、およそ500年前に悪疫鎮護の願いを込めて始められ、正徳4年(1714年)には、現在のような山鉾が奉納されていました

祭神は素盞鳴尊(すさのおのみこと)。豆田八坂神社・隈八坂神社・竹田若宮神社の三社の祭礼行事で、平成8年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

これらの山鉾は、全て町内の皆さんの手作りによるものです。毎年、歌舞伎の一場面を題材とした飾りつけが行われ、日田唯一の人形師「長嶋静雄さん」の手により、各山鉾に乗せられた人形に命が吹き込まれます。

平成28年には、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。

祭礼への流れ

7月初旬

■小屋入り行事

作業始めとして祭に参加する全員で御神酒上げを行います。

■色あげ作業

解体された山鉾の館等の色を塗り直し、金紙を使った欄干の金具等を貼り替えます。

■パイパイ染め

山鉾の高欄の両側に挿すパイパイを、塗料で染め乾かします。

2週間前

■車揚げ

木製の山鉾の車輪は、普段池の水の中に沈められており、山鉾の組立前に池から引き上げます。

■山鉾組立(飾り付け)

色揚げされた館や、車輪等が組み立てられ、パイパイや手作りの松ノ木、牡丹等を飾ります。

1週間前

■御輿洗い神事

■人形乗せ

各町内に振り分けられた華題の人形を、人形師の指図の元に山鉾に乗せます。

■山番

各山鉾の納所で夜警が始まります。

■流れ曳き

山鉾のバランスや車の調子を見るための試運転を行います。

■集団顔見世

流れ曳きの日に、豆田4基と隈・竹田4基に平成山鉾を加えた計9基の山鉾がJR日田駅前へ集結します。

当日

■祇園祭典(土日2日間)

豆田地区、隈・竹田地区の各地区ごとに山鉾が巡行されます。

翌日

■山鉾崩し

各町ごとに山鉾の解体や、祇園山鉾会館への収納等の作業を行います。

■仕舞い・勘定

掛け振り帳で購入した物の支払いや、山鉾に上がった清酒等が清算されます。

■藪入り

打ち上げを兼ねて慰労が行われ、一切の祭の行事が終わったとされます。